

平成28年度
観光統計調査報告書
(平成27年1月～12月)

一迫花山商工会

観光統計について

1. 調査分析資料

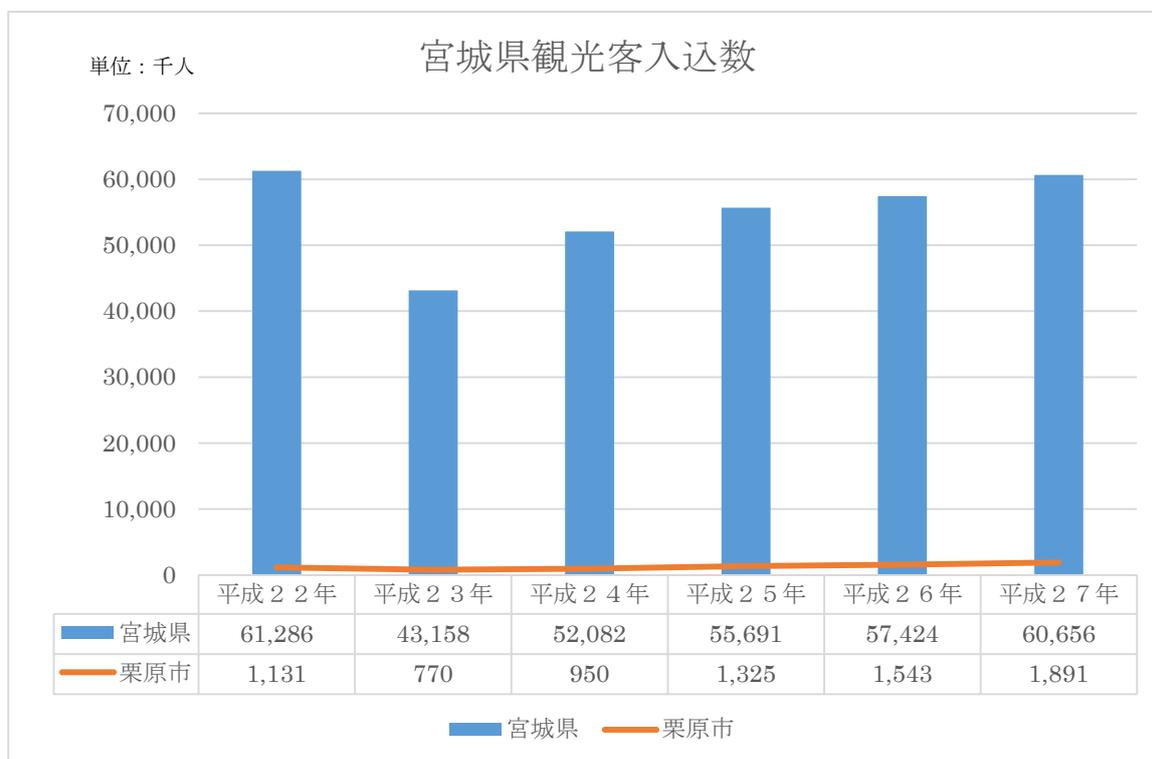
宮城県 観光統計概要 平成27年（1月～12月）

2. 資料について

- （1）県内の圏域は仙南・仙台・大崎・栗原・登米・石巻・気仙沼の7地区です。
- （2）観光客入込数、宿泊観光客数は延べ人数です。
（1人が観光地点を2箇所訪れた場合や、2泊した場合は2人となります）

(1) 観光客入込数

①宮城県観光客入込数



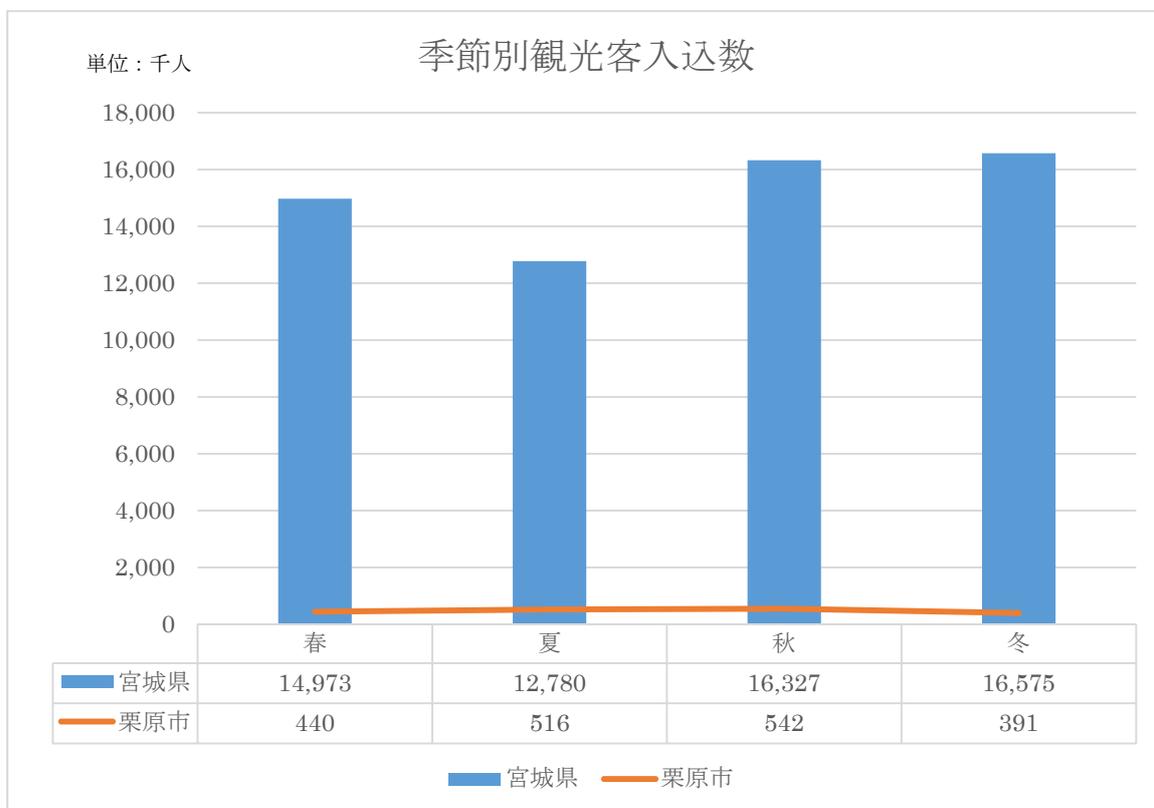
宮城県の観光客入込数は平成22年に61,286千人と年々増加傾向であったが、平成23年に発生した東日本大震災の影響で平成23年の観光客入込数は大幅に落ち込む結果となったが、翌24年からは着実に増加していき、平成27年の観光客入込数は平成22年と並ぶ(98.9%)ほど回復した。

栗原市の観光客入込数は平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震により平成19年入込数の1,910千人から大幅に落ち込んでいたが、栗原市の観光客入込数増加戦略等により前年より348千人増加し、市の観光客入込数目標の94.5%である1,891千人まで回復した。

宮城県の観光客入込数増加の要因として、震災被害から再建した沿岸部の施設、交通等の増加や震災からの復興、絆を掲げるイベント等の実施などが考えられる。

また、栗原市も多くのイベントを開催し、地区内外に様々なPRを行ったため増加傾向である。

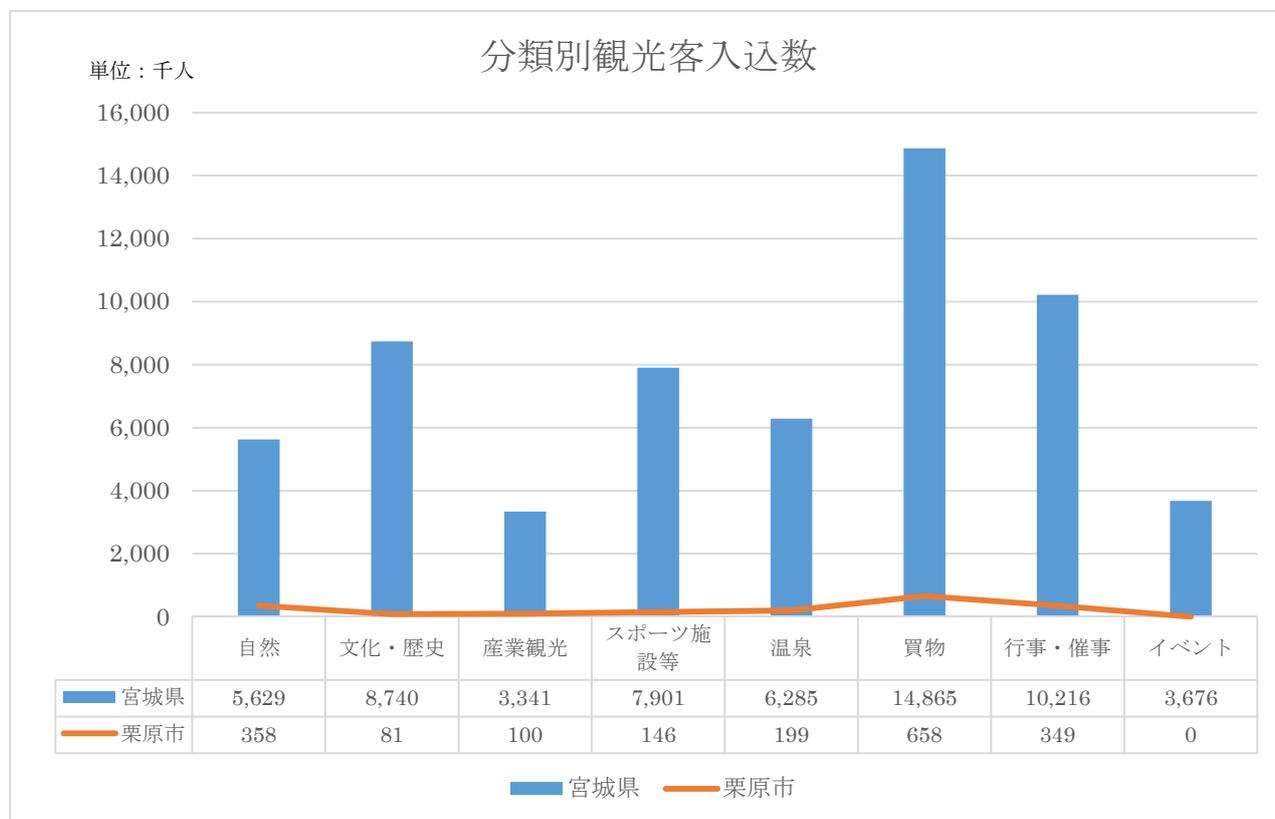
②季節別観光客入込数



宮城県の季節別観光客入込数は通年を通して昨年度より増加している。特に例年は観光客入込数が下がる冬季が伸びており、旧仙台市・松島地区への観光客入込数が多くを占めている。

栗原市についても通年を通して観光客入込数は増加しているが、他の山間部同様、雪が深くなり、観光資源が乏しい冬季の観光客入込数が大幅に落ちている。

③分類別観光客入込数

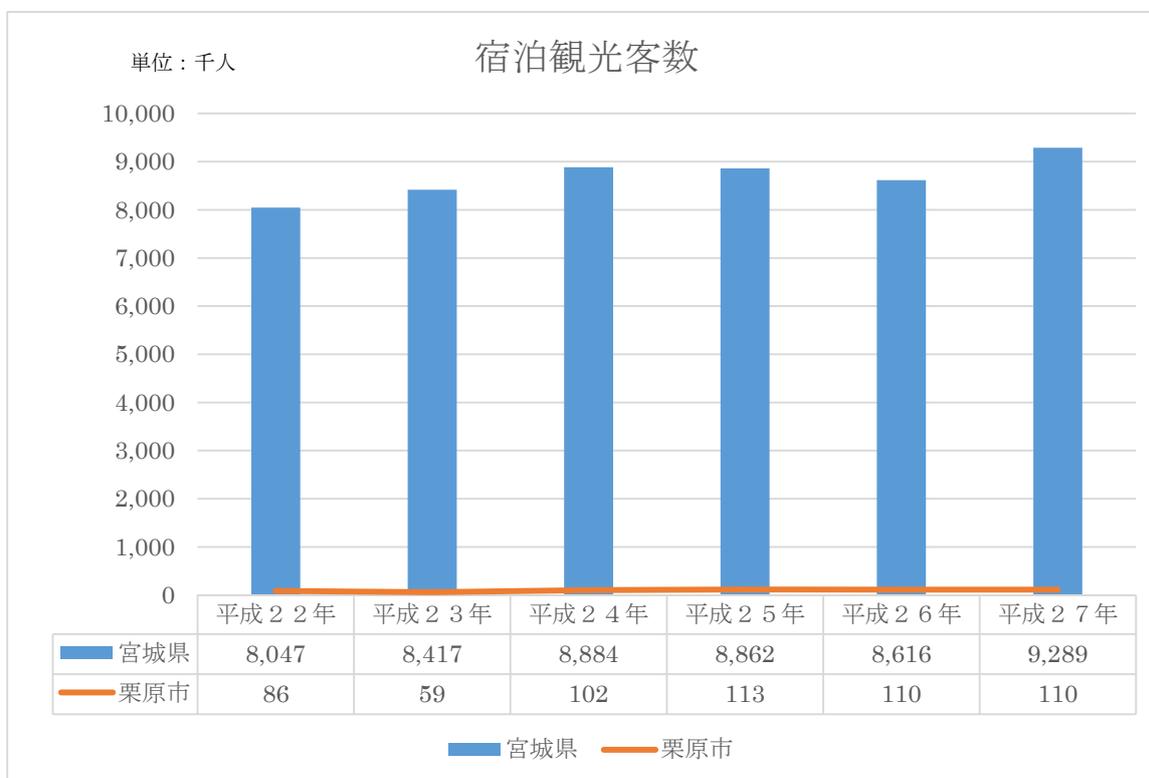


宮城県の分類別観光客入込数は、「買物」が一番多く、前年より 671 千人増の 14,865 千人の入込数があった。

次いで「行事・催事」が 761 千人増の 10,216 千人、「文化・歴史」は 372 千人増の 8,740 人となっており、「自然」、「温泉」を除き前年より観光客入込数が増加していた。

栗原市の分類別観光客入込数は宮城県と同様に「買物」が一番多く 179 千人増の 658 千人で、次いで「自然」が 82 千人増の 358 千人、「行事・催事」は 72 千人増の 349 千人となっており、上位 3 分類で栗原市の観光客入込数の 72.2% を占めている。また、「スポーツ施設等」を除き前年より観光客入込数が増加となった。

④ 宿泊観光客数

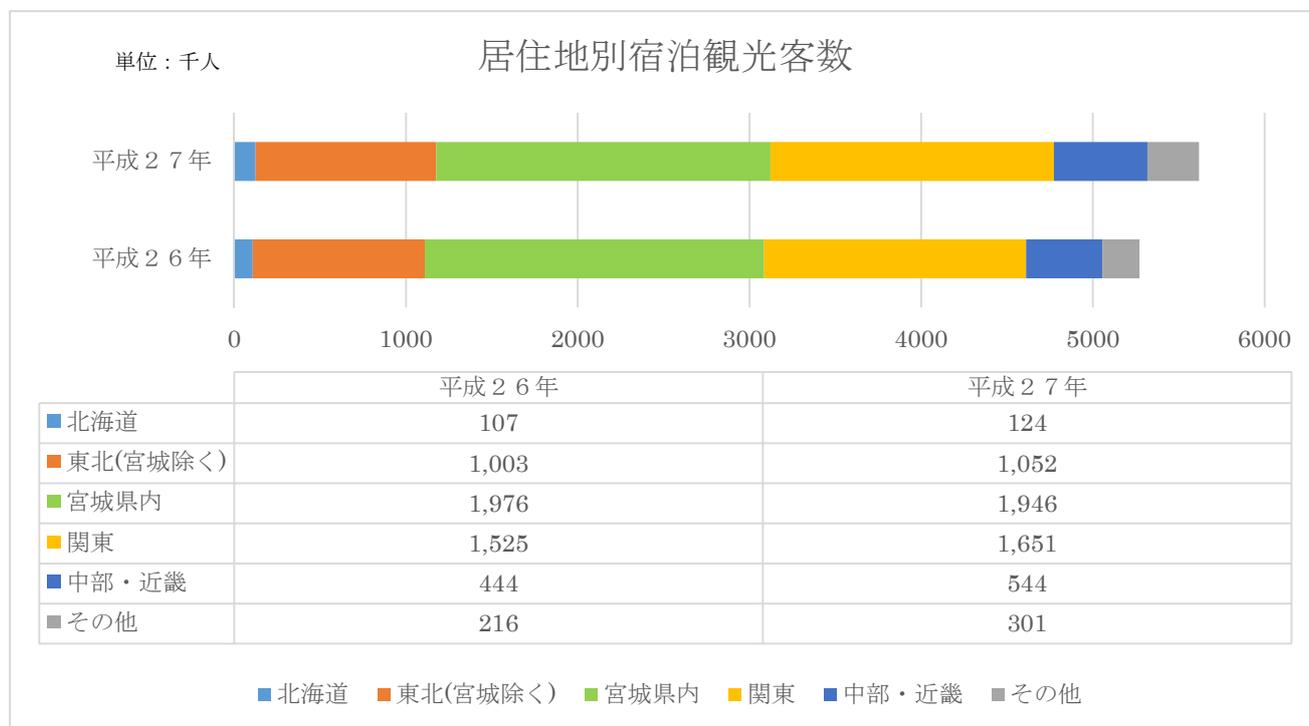


宮城県の宿泊観光客数は東日本大震災の復興需要により増加していたが、復興需要が落ち着いてきた平成25年から減少傾向となっていた。

平成27年は震災被害からの施設再建の他、大型コンサートや国連防災世界会議、「観光王国みやぎ旅行割引」等の影響から増加に転じた。

観光客入込数は増加している栗原市であるが、上記の影響が少なかったことや、宿泊施設の少なさなどから宿泊観光客は伸びずに前年並みとなった。

⑤居住地別宿泊観光客数

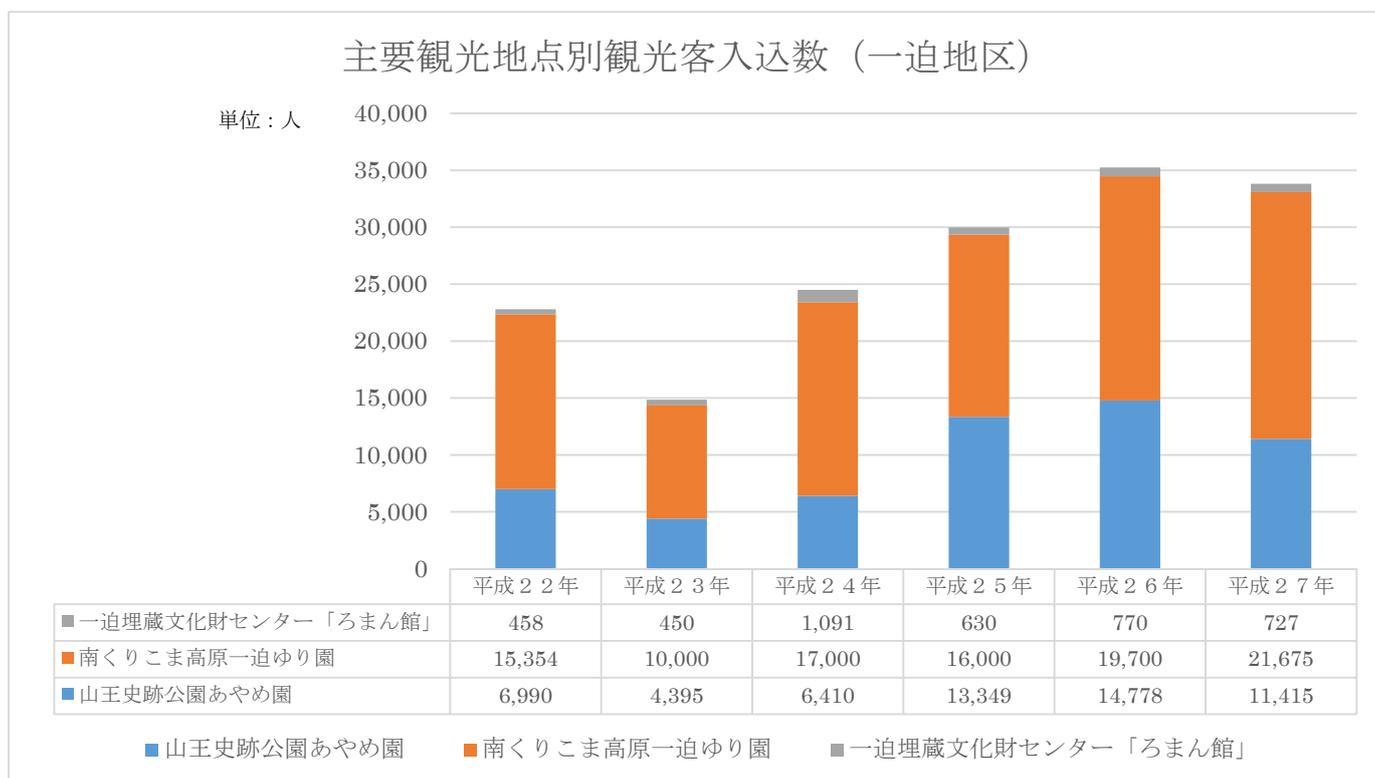


居住地別宿泊観光客数は前年より減少したものの県内が最多となっていたほか、関東は126千人増の1,651千人、東北（宮城県除く）は49千人増の1,052千人と県外からの宿泊観光客が増加していた。

また、前年と比べると関東や中部・近畿等の宿泊観光客数の増加率が高い結果となった。

⑥主要観光地点別観光客入込数

【一迫地区】

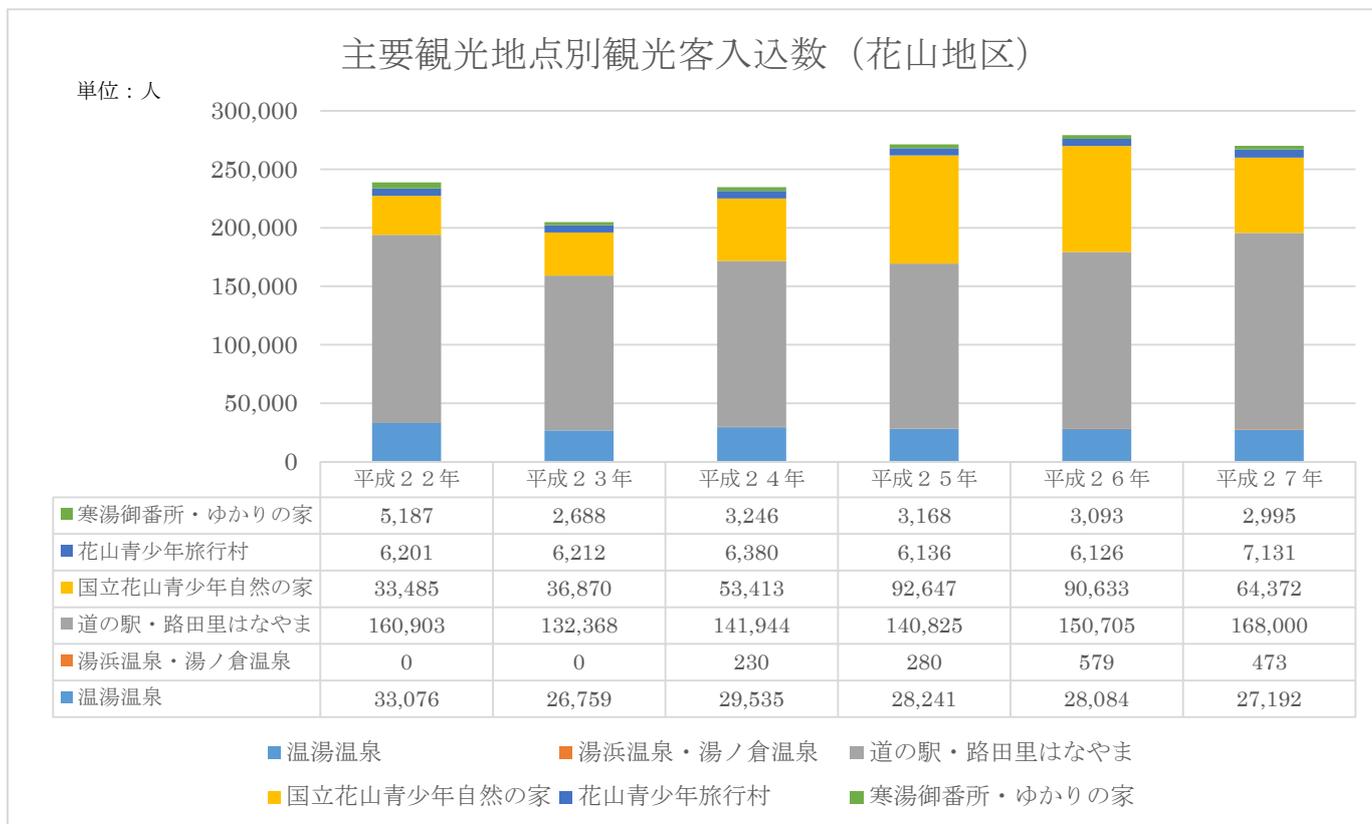


一迫地区で統計を取っている平成27年の主要観光地点別観光客入込数は南くりこま高原一迫ゆり園が1,975人増加し21,675人となった。

順調に伸びていた山王史跡公園あやめ園は3,363人減の11,415人、一迫埋蔵文化財センター「ろまん館」では43人減の727人となった。

平成27年の一迫地区の主要観光地点別観光客入込数は全体で33,817人となり、前年より1,431人減と平成23年以降初めての減少となった。

【花山地区】



※湯浜温泉・湯ノ倉温泉は震災の被害により平成22年・平成23年は休業。

花山地区の観光客入込数は道の駅・路田里はなやまが17,295人増の168,000人で花山地区の主要観光地点別観光客入込数の中で最多となった。

次いで26,261人減となっているが64,372人の入込数があった国立花山青少年自然の家、892人減となった温湯温泉となっている。

花山地区で平成27年に入込数が増加した主要観光地は花山青少年旅行村(+1,005人)、上記道の駅の2箇所であり、全体の観光客入込数は9,057人減の270,163人であった。

栗原市の他主要観光地点別観光客入込数は752,422人であり、内一迫地区は4.4%、花山地区は35.9%であった。また、栗駒地区の入込数の増加率が特に高い結果となった。

平成27年の栗原市全体の観光客入込数は348千人増加し、1,891千人となっているものの、一迫・花山地区の観光客入込数は伸び悩む結果となり、増加傾向である観光客の取り込みに向けて更なる検討が必要である。